

山弓連 平成26年7月

(26年度第3号)

全日本弓道選手権大会山梨県代表選手

男子・渡邊幸太(五段) 芦澤茂幸(教士六段)
女子・高埜よしみ(練士五段) 佐野弥生(練士五段)
第65回全日本男子弓道選手権大会
平成26年9月21日～23日・中央道場
第47回全日本女子弓道選手権大会
平成26年9月19日～21日・中央道場

55回関東地域弓道選抜選手権大会

山梨県代表選手

平成26年9月14日 群馬県前橋市開催
有段者の部
上条剛央(四段) 河西映里(五段) 渡邊幸太(四段)
山下弘行(五段) 中澤国弘(五段)
称号者の部
綿奈部博史(教士六段) 若杉年久(練士六段)
標 輝人(練士六段) 高埜よしみ(練士五段)
古屋浩元(教士六段)

第69回国民体育大会弓道競技

山梨県代表選手

平成26年10月13日～16日・島原市開催
成年女子・小泉 茜(笛吹) 梶原久美子(笛吹)
根津里美(笛吹)
成年男子・上条剛央(上野原) 中澤国弘(甲府)
渡邊幸太(富士吉田)
少年男子・中澤滉明(吉田高) 荒井智博(北陵高)
渡邊 亮(北陵高)
少年女子・渡辺玲菜(北陵高) 船久保祐理(吉田高)
宮下沙希(吉田高)

関東高校弓道大会の結果報告

関東大会に男女各4校が山梨県の代表として出場しました。県予選でもレベルの高さを見せた男子は、関東大会でもその力を発揮し、4校とも予選を通過することができました。
決勝トーナメントでは県勢同士での戦いが重なって

しまい、そろって上位進出というわけにはいきませんでした。富士北稜高校が2桁の的中を持続して決勝戦まで勝ち上がり、見事に準優勝の栄冠を手に入れました。

個人戦では巨摩高校の望月君が8射皆中で上位7名に入り、競射の結果、3位に入賞しました。

女子では2校が予選を通過したものの、決勝トーナメントを勝ち上がることができず悔しい結果となりました。

しかし、出場36校から2校だけが選ばれる技能優秀校に吉田高校が選出され、その技能のレベルの高さが評価されました。

平成26年度 第58回関東高等学校弓道大会

日時:6月6～8日

場所:海老名運動公園 総合体育館 特設弓道場
(神奈川県海老名市)

男子団体(3人立ち立射) 予選(24射)

甲陵 19中 ・巨摩 18 ・中富士北稜 16中
甲府工業 15中

4校とも決勝トーナメント進出

決勝トーナメント(12射)

1回戦

巨摩 対 坂戸西(埼玉) 5対4

富士北稜 対 江戸崎総合(茨城) 10対7

甲陵 対 甲府工業 9対8

2回戦(準々決勝)

巨摩 対 富士北稜 7対11

甲陵 対 向の岡工業(神奈川) 4対9

準決勝

富士北稜 対 中之条(群馬) 11対10

決勝

富士北稜 対 美原(東京) 6対9

男子個人(8射)

望月龍吾(巨摩) 8中

3位入賞(順位は競射による)

女子団体 予選(24射)

吉田 16中・甲府商業 13中・富士河口湖 8中
市川 8中

甲府商業、吉田は決勝トーナメント進出

決勝トーナメント(12射)

1回戦

甲府商業 対 匝瑳(千葉) 4対6

吉田 対 鹿島(茨城) 4対6

技能優秀校・・・女子 吉田高校

報告・山梨県立 日川高等学校 青野孝文

第35回あやめ祭り弓道大会

第35回あやめ祭り弓道大会が平成26年5月11日(日)富士川町殿原弓道場で行われました。まぶしいほどの新緑と気持ち良い五月晴れのもとで大会を迎えることが出来ました。

『あやめ』も咲き始め大会に花を添えてくれました。遠くは埼玉県や静岡県から、また県下全域より合計70名の弓友の参加がありました。

競技は近的8射、遠的8射を個人戦で行いました。

近的

遠的

1位	松田栄子	8中	埼玉県	下田徹	7中	埼玉県
2位	萩原英寿	7中	笛吹市	高藤重蔵	7中	富士川町
3位	中澤国弘	6中	甲府市	中澤国弘	5中	甲府市
4位	酒井紀夫	6中	都留市	高橋恭平	5中	甲府市
5位	渡辺律子	6中	富士吉田市	青島勉	5中	中央市
6位	青島勉	5中	中央市	萩原英寿	5中	笛吹市
7位	秋山喜美雄	5中	埼玉県	曾根豊	4中	富士吉田市
8位	鎌和田哲史	5中	富士吉田市	富高彰	4中	埼玉県
9位	内藤幸雄	5中	甲府市	渡辺正樹	4中	富士吉田市
10位	下田徹	5中	埼玉県	丸山悦司	4中	富士市

関東南指導者育成講習会に参加して

平成26年6月7日(土)8日(日)

中央支部 渡辺 洋 五段

初日は高橋主任講師による矢渡しから始まり、8日は川村講師による一ツ的射礼が行われました。大勢の受講生の視線を受けながらも、淡々と自己の射を貫く両講師の堂々たる射礼に、私も気を引き締めて講習に臨みました。まず初日は、審査方式で受講生の一手行射が行われ、講評を受けました。一人ひとりの射技の癖などの矯正よりも重点をおかれたのは、やはり、射技と体配の全員に共通する基本でした。私はもちろんの事、他の受講生の方々も感じていると思うのですが、講習会では毎回必ず、「射技体配の基本」を確認し、繰り返し注意されるにも関わらず、また同じことを指摘される場面が多々見られます。自分では「ちゃんとしているつもり」であっても、講師の目からみると、「レベルの低い自分基準の所作で満足している受講生」という事なのでしょう。身に沁みて感じました。今回の講習会は、単に自分の射技体配を向上させるためのものではなく、他の人たちに伝達するため、指導するため、の要素があります。今の自分が出来ない事を、なんとなくそれらしくこなせる程度に引き上げるような甘い考えでは駄目なのです、きちんと他人に教授で

きるように、真剣に臨まなければ講習会に出席した責任が果たせません。私はまだ五段であり、指導する生徒等を持っているわけではありませんが、そのような意識をもって、講師の意図をくみ取れるよう真剣に講習に臨みました。道場に大きく響く、厳しい声の両講師に射礼、体配等みっちり細かい指導を受け、頭ではわかっているのにどうしても自分が出来ない拙い事がひとつひとつ炙り出されていき、これからの課題がはっきりとわかった2日間でした。同じように、他の受講生も自分の課題を再確認する事が出来たのではないかと、思える指導者育成講習会でした。私個人的には、2日間を通して、まったく自分の射をする事が出来なかった事で、大変悔しく、後悔と反省をしております。その原因についても思うところがあり、色々考えることができた、実り多い講習会参加でした。

全国高校総体(インターハイ)県予選

6月21・22日の2日間

団体戦の決勝リーグでは、的中数、勝敗数ともに僅差の大接戦が展開されました。男女とも、決勝リーグの2回の対戦を終えた時点で勝敗が入り乱れ、どのチームが優勝するのか全く予想のつかないまま3回目の対戦に入りました。射場の選手達も応援の生徒達も気合いに満ちた試合を展開し、男子では甲府工業が16中の的的中で勝利し、総的中数で巨摩高校を1本差で上回って優勝を手に入れました。女子では甲府商業が巨摩高校との4連続の競射で競り勝ち、やはり総的中数1本差で優勝しました。

個人戦の男子では、巨摩高校の大森君が安定した的中で優勝、甲陵高校の千野君が射詰競射のすえ8寸的を射ぬいて準優勝となり、インターハイの代表権を獲得しました。女子では吉田高校の柴田さんと巨摩高校の佐久間さんが共に16射15中でインターハイ出場を決め、順位決定戦で柴田さんが優勝の座に輝きました。インターハイは8月7日~10日、東京武道館大武道場特設弓道場で行われます。全国の大舞台で山梨県の代表選手が大いに活躍してくれることと期待しています。報告・山梨県立日川高等学校 青野孝文

全国高等学校総合体育大会 出場校・出場者

(女子)

団体・甲府商業 高校

個人戦・柴田美優花(吉田) 佐久間有咲(巨摩)

(男子)

団体・甲府工業 高校

個人戦・大森一樹(巨摩) 千野俊春(甲陵)